

社説

藩閥政府は人望以外、別に據る所なきに非ざりしも民衆内閣の持む所は只國民の同情あるのみ部下の屬吏輩は元と藩閥の養成したる所にして假令ひ今の當局者に對して表面に不平の色なきも心の底に不快の感あるは明白にして警視廳の如きは政權授受の際、殆んど公然反抗したるほどの次第なれば固より以て熱心なる東方と稱す可らず陸海軍は恰も治外法権の姿として昔く民衆の勢力を及ぼす能はず貴族院の中にも現政府を喜ばざるもの多しと云ふ前後左右敵に非ざれば即ち他人にして同情を表するものは獨り一般の人民あるのみ左近は人望は政府唯一の後盾にして何は鬼もわれ先づ世間の信用を得るの工夫肝要なるに然るに今日までの舉動を見れば誠に屢々不斷にして國民の熱望する行政改革もいはゞ々々しく進捗し力往々官吏を任免すれば憲政黨員に非ざれば人にして人に非ざるが如く苟も黨員と云へば法外なる人物をも遠慮なく用ひて往々人を鬻かずふとあるのみか曾て地方人民の不信任に依て追出されたる地方官を何故にややび其地位に轉任せしむるなぞ恰も人民を輕蔑するが如き舉動は一なきに非ざ蓋し議會に多数の味方あれば以て政府を維持するに思る可知との考もあらんかなれども議員を選舉する人民も將た議員自身も常に局外論者の意見に依て動さるゝものにして輿論の根源は寧ろ政黨以外に在りと知る可し然かのみならず黨員の數には限なくして政府の地位には限あり一朝政權を握るも總ての黨員を滿足せしむる能はざるは勿論として同じ黨内にも得意の者と共に不平の者あるは免る可らず此時に當り當局者の舉動、幸に世間の賛成を得れば彼の不平なる者も抑へて敢て發せざる可しと雖も不幸にして議員の非難する所と爲れば乘じて以下らぬ苦情に耳と與け某の舉動に物議あるが故に議論が起るゝ可らず何人が不平を唱へるが故に云々せざる可らずとて西に之様にては到底その威儀と保つ可らずの處置を免れば一方に於て天下の公私に害を及ぼす事なるを以て所の如き聞かり云はずかぬ事なれども心中一矢を發す事無く大抵の議論が其の如きの

官業擴張の弊害

る經常收入を増加するは歐洲大陸諸國に行はるゝ經濟法にして昔晉西政府の如き多年の方針を以て官業の擴張を謀りたるを以て最近馬克に上りて租稅より徵收する收入の二分の一に當り今後營業の整理と共にいよいよ増加の望むと云ふ從來我國に於ても此邊の事實を見て官業の擴張を希望する者少なからず現に昨今鐵道官有論を唱ふる人の内にも鐵道事業の如き利殖の見込確實なる事業を官有と爲し其收入に依て歲計の一部を維持せしむるは自ら財政の基礎を鞏固にするの道なりと信ずる者あるが如し或は政府が昨今の如く株式の下落しき時に乘じ非常の低價を以て私設鐵道は從來配管金を増して株主の満足を買はんとするを得ず然らばいよし政府に於て鐵道の買収を爲め然更に營業費を節して工事を粗鄙にしたる點も少なからざれば今後官有の曉に陸軍當局者の希望する如く専ら軍用に適せしむる。豫に工事の改良を謀るに於ては停車場の擴張車輛の增加橋梁の改築等に多額の資金を要せしむるが如き場合には官有の爲めに却て歳入の不足著しく内外の市場孰れを問はず相當の利子を付し公債を募集發行して必要に收入を増加するは甚だ疑はしき所なるのみならず政府が年々多額の公債を募集して官業の支出を増加するの挙句もそれ之に依て經常金利の高低を谷間に前途の成行を豫知す可らず其次第と述べて元來經濟社會の事は時々刻々に變動するの常にして金融の

藩閥政府

藩閥政府

明のじにしたる老三山に周邊は如きはたな西ののらはるしとたなを終る。

治十四年の政變に際しては、人派の本尊として、人の張本として、失策以來決々と、在りて狂氣込みの渦流の頂に木戸大久保が、屢々に及んで物の發達を助けるも、松方が姿を現さず、至りしは頗る意氣の盡る例に習ひ根本の氣取れり去れば、川村などの輩が、されども當時は未だに、品川彌二郎の如く、藍が脣を伴食に出でたる如きの故であるが、土州の福岡孝輔が、されたる外に佐野常連、自由の所大久保らが、うちに抗ひ去られ、氣取れり去れば、は其の如きの事である。

後に於ける政府の顔面紅潮して山縣頗る重ぜられ黒田内閣同族の座頭なるも開拓して樂まず内閣顧問の開拓に立つものなきが故に伊藤、井上、小西郷、山田、伊藤が用ひられしは當然の結果然出世して此輩と同席する者數の出世にして桿山資紀が支那復興の爲めに用ひられたるに於ける事仕事と歸して他に頗る藩閥派議の爲めに之にして藩閥以外の人物が西郷が曾て勝安房を常民、大木喬任、田中不二一時昇はれたる憎惡の念を推舉して得意らしく此際内閣に於ける事仕事と歸して他に頗る藩閥派議の爲めに之にして藩閥以外の人物が西郷を再び陞進にして内閣に於ける事仕事と歸しては容易に知る所であるが、一方で西郷は曾て勝安房を常民、大木喬任、田中不二一時昇はれたる憎惡の念を推舉して得意らしく此際内閣に於ける事仕事と歸して他に頗る藩閥派議の爲めに之にして藩閥以外の人物が西郷を再び陞進にして内閣に於ける事仕事と歸しては容易に知る所であるが、一方で西郷は曾て勝安房を常民、大木喬任、田中不二

卷之三

の高見城や吐魯番
をはし
太だ運動を始め
ずして之を勧告す

とさりし爲め政府は周旋してさるに先ち外國に遣るに若かれて明治十五年の秋板垣と共に遅れて遅るも事兩三ヶ月の後、歐出發せしめ二人は彼地に於て見合したる由尤も自由黨中にての輩は之を不快として脱糞しての一派は斯くの如き魂膽わりと厄介視する始末なるにぞ三所分に別して一時は殆んどたりしといふ。

○臺北慶雲夏生、有馬參
し當日は基路
文字を同規にて
に關する規定にて
午後六時より
るに川村惇、
するを得ざる
なりしも當日
するを得ざる
○關東俱樂部
は去六日午後
て臨時總會を
め星亨、新井
助、利光鶴松
議の末左の
一憲政委員會
臨時大會會
一中央地主
根本的の政
一官吏任用
一陸海軍委員
各省と開
一評議員を
右各項に付
る事

を野へ下し其同監禁をして打て出せしむる決
心なりしも其頃は未だ三條、岩倉のあるあり
て誠論更らに纏ひざるに依り假りに先づ福地
水野、丸山の三人を幕員として出所不明の藤
田一郎なきいふ輩を集め民間に氣焰を高めん
としたれど之に應接したるものば三鷹退庸が
會津の窮士族を催促して驅り來れる三百人の
壯士あるのみにして十五年の秋大阪に自由黨
が會すると聞き帝政黨も亦西京に會合して暗
に謀る所あらんとせしも此諭は裏面の策略に
扇されて福地と三鷹は貴賤闘を引き唯表面に
大失格を上げたるのみにて解散したりといふ
其事實は是より先き板垣は各地遊説の途中美
濃の岐阜にて小學教員に刺され輕傷を負ひた
る事あり其時刺使は越々同地へ下向して恩賜
優渥なりし爲め頗る自由黨を感激せしめたる
のみならず在朝參議院の消息も此頃より相通
じて世間には密々ながら既に種々の譖判あり
一朝或る人の周旋助力に依り其炭礦を賣却し
て身に休養の眼を得たる爲め東京に戻りて風
雲の至るを待たんとするの色あり自由黨の起
るや直ちに加入して其常議員ど爲りたれば政
府の恐慌は又一方ならず既に板垣、大隈の二
虎わたりてすら甚だ苦しむに更に一疋の大虎た
る後藤が資性不敵の大風呂敷を開かば天下舉
つて之に應するならんとて之を豫防する方略
に苦心したるに參ひても後藤は其貞永を何等

のを音

といふ事
事古今未
有たりて
前記の如
く、國大軍
械部依託
するもの
である。こ
れらは、國
大軍械部に
於ける事
業の改進に
關する事
業である。
國大軍械
部は、國大
大學農科
附設學生
陸軍軍械
部の内、作
業の如きを
國大軍械
部に於ける
事業の改進
に關する事
業である。